

## 平成 30 年度 兵庫県クラブユースサッカー (U-14) 新人戦 決勝 戦評

準々決勝でヴィッセルダービーに勝利し勢いづいているヴィッセル伊丹と、1 年時より急成長してきたエベユ。この 2 チームの決勝は見応えがある展開となった。

開始早々の 1 分でヴィッセル伊丹のパスミスを奪った後、素早い縦パスを受けた FW がターンしシュート。鮮やかに決まりエベユが先制。

エベユは勢いに乗り、積極的に前線からヴィッセル伊丹の DF ラインのビルドアップに対してプレッシャーをかける。ヴィッセル伊丹は MF がボールを思うように受けられずにミスが増え、安定してボールを持つ場面を作れない。それを奪ってショートカウンターでチャンスを作るという前半半ばまでの展開。

そのプレッシャーに慣れてきたヴィッセル伊丹が、左サイドから DF ライン背後斜めにランニングしスルーパスを受けシュート。GK に弾かれたがこぼれを押し込み同点に。失点を機にエベユの足が止まり始め、プレッシャーが弱くなり少しずつヴィッセル伊丹ペースになっていった。27 分、ヴィッセル伊丹が CK からヘディングシュート、こぼれ球を押し込み勝ち越し前半終了。

後半は、逆転したことでヴィッセル伊丹が落ち着きゲームを優位に進める。しかし、ゴール前でエベユの守備陣が踏ん張り、なかなかゴールを奪えない状況が続く。選手交代で状況を変えようと両チームとも動きが活発になってきた 22 分、ヴィッセル伊丹が相手 DF 背後へのランニングにロングフィード。それを持ち込みペナルティーエリア付近で GK と 1vs1 になり、左 45 度からのシュートで 3 点目を奪い、試合を決定づける。

その後、エベユは CB を 2 枚にし、人数をかけ攻撃するもゴールは奪えず試合終了。

逆転でヴィッセル伊丹が優勝。

前半ヴィッセル伊丹は DF ラインが下がりすぎて、深くなっていたことで MF との距離が遠くなり、ボールを受けづらく、守備時にはそのスペースが使われたことで失点につながった。その逆でエベユはそのスペースを有効に使い攻略したことで先制点を奪えたが、修正された後は攻め手を失ってしまった。

ヴィッセル伊丹の DF と MF のスペースをどのように攻略、修正するかが大きなポイントのゲームであった。

この後の、リーグ戦・クラブユース選手権でさらに成長した姿を両チームとも見せてもらいたい。